

# 核のゴミと福井の未来を考えよう!

使用済み核燃料(高レベル放射性廃棄物)

「敷地内乾式貯蔵」問題



— 万年先、いや千年先、いや50年先の

子孫のなげきを想いつつ、冷静にそして誠実に議論しよう —

# 八方ふさがりの「核のゴミ政策」

## 「展望はなく場当たり的」

54年前、次のような警鐘が鳴らされていました

### 原電 疑問だらけ

読売新聞（県版）1971年6月30日

原子炉の耐用年数は平均十五年  
一二十年といわれる。耐用年数の  
過ぎた原子炉はもちろん、運転休  
止にするが、取りこわすには放射  
能が飛び散るので、そのままの状  
態にしておくというのが学界や電  
力会社の方針。なに分、世界でだ  
れも知らない未知のことだらけに  
「福井県の美しい海岸線は原電の  
墓場がずらりと並ぶのでは……」  
といった不安が出るのも当然。県  
臨海開発課とも、将来の展望はな  
く場当たり的で「ひとつにならなだ  
らう」とたよりない状態。

「原子炉から出る廃棄物の処理も、どうするかの見当もついていない」  
「将来的展望はなく場当たり的」

い。科学技術庁は東海村実験炉

「福井の美しい海岸線は原電の墓場がずらりと並ぶのでは…」

「原子炉から出る廃棄物の処理も、どうするかの見当もついていない」

「将来的展望はなく場当たり的」

# たまり続ける 使用済み核燃料（高レベル放射性廃棄物）

## まず事実を見つめよう！

なぜ、関西電力は、使用済み核燃料を原発敷地内で「乾式貯蔵」したがっているの？

関電が「敷地内乾式貯蔵」を急ぐ理由は、使用済み核燃料を保管する原発プール

が3年後（2028年）には満杯になる。そうなると燃料交換ができず、原発の運転もできなくなるからよ。

でも、関電は、「青森

県六ヶ所村の再処理工場

が2026年に稼働し、その後は使用済み核燃料を青森へ移送する」から「原発敷地内での乾式貯蔵はあくまでも一時的」と言つてゐるわ。

県も「2026年に再処理を必ず操業させ

ると国が言つてるので、若狭から搬出計画も滞りなく進むと思う」と他人ごとのように構えているわね。

でも、国が言うのだから安心ね。「若狭が核のゴミの墓場になる」と

大げさに騒ぐ人たちもいるけど、心配しすぎなんじやないの？

なぜなら、再処理工場は、1993年に着工し1997年に完成するはずだった。それが27回（年）も延期を繰り返し、32年経つた今も完成していないのよ。

でも、国や国策企業が動かすと言つているんだから、私たち国民は信用するしかないんじやない？ なぜ「仮定」と言い切れるの？

えつ、知らなかつたわ。普通の企業ならとつくに中止・撤退しているところよね。これまでにどれくらいのお金がつき込まれてきたの？

1979年の構想では、

建設費と40年間の操業費



と見込んでいたけど、2025年に  
は22兆円を超え、工場が動き出せば  
コストはさらに増大する見込みよ。  
これらのコストはすべて国民負担よ。



ところで、「再処

理工場」というのは、  
使用済み核燃料を無害化する  
工場のことなの？

かつて、みちのく銀行の頭取が

「青森県はリスク一な施設を押し付  
けられた」と憤慨していたけど…。

使用済み核燃料の再処  
理で、原爆材料プルトニ

ウムと高レベル放射性廃液（ガラス  
固化体にする）が生み出されるのよ。  
より厄介なゴミに置き変わるだけね。



## 受け入れ先のない ガラス固化体

青森県は30年前、英仏から返還のガラ

ス固化体2140本を30～50年の暫定  
保管で受け入れました。国は「青森を  
最終処分地にしない」と約束しました  
が、30年後の今も行き先はありません。

一時のお金目当てに北海道の寿都町  
と神恵内村が深地層処分の文献調査を  
受け入れましたが、北海道には核のゴ  
ミを持ち込ませぬ道条例があり、道知  
事は概要調査へ進むことにも反対して  
います。

また、長崎県対馬市では、昨年3月、  
市を二分する選挙の結果、ガラス固化  
体の受け入れ（概要調査）を拒否した  
市長（自民党）が三選されました。  
そもそも地震大国の日本列島に安  
定した地層など無いのです。

国は、使用済み核燃料  
を再処理し、まだ使え  
るウランとプルトニウ



ムを取り出し、原発で繰り返し使う  
「核燃料サイクル」を進めようとし  
ているんだけど、このガラス固化体  
の最終処分場がいまだに見つからな  
いことも大きな足かせになるわ。だっ  
て、仮に再処理工場をフル稼働させ  
ると、行き先のないガラス固化体が、  
年に約1千本も新たに生まれてして  
しまうのよ。

30年前に英仏から返還さ  
れたガラス固化体を受け  
入れる自治体が見つからないのに、  
新たに1千本も生み出してしまって  
る。国の未来を危うくする大問題  
ね。政治家はいったい何をしている  
のかしら。

# 再処理工場の操業率は10%程度！若狭の使用済み核燃料の県外搬出はできない！



廃止措置になつた東

海村の再処理工場では、

故障続きて高レベル放

射性廃液のガラス固化がうまくでき  
ず、廃液を入れたステンレス貯槽の  
老朽化が進んでいるそうね…。

高レベル廃液は崩壊熱  
を持ち、腐食性があるの



よ。東海村にはその「高  
レベル廃液」が336㎥も貯蔵され  
ているのよ。これは広島原爆数万発  
分の放射能が含まれ、セル内に入つ  
たら数十秒で死亡してしまつわ。

六ヶ所再処理工場にも、2006  
年から3年間の試験運転で発生した  
廃液が211㎥も残つてゐるのよ。



再処理の第一の目的は

プルトニウムを取り出

すことにあるんでしょ。

でも、平和国家をめざすべき被爆国  
日本が原爆材料をつくつていいいのか  
しら？

すでに日本は、その原  
爆材料プルトニウムを



44・4トン（2024年末）も保有  
してしまつてゐるのよ。

だから、国の原子力委員会は「余

剩プルトニウムを持たない」国際公  
約を実現するため「プルサーマルの  
着実な実施に必要な量だけ再処理が  
実施されるよう認可する」方針な  
よ。「我が国におけるプルトニウム利用に  
する基本的な考え方」（2018年7月31日）



でも、4年前の自民党

総裁選で岸田さんは「核

燃料サイクル（プルトニ  
ウムリサイクル）を止めると、プル  
トニウムが増える」「核燃サイクル  
によって除去される高レベル核廃棄  
物がそのままになる」「だから（再  
処理も）やめられない」と演説して  
いたわ。あれつて、論理が逆さまな  
のね。この国の政治家の頭の中はいつ  
たいどうなつてゐるのかしら。

総理候補ともあろう  
人が核燃料サイクル



（プルトニウムリサイクル）の破綻  
に気づいていないんだから、まさに

「亡國」の極みだよね。

ところで、再処理工場

ニウムの10%程度なのよ。

私たちには、県の原子



ニウムが回収されるそうね。

場をフル操業すると、  
年約6・6トンのプルト

でも、「余剰プルトニ  
ウムを持たない」という



国際公約に制約されてい

るため、再処理で取り出せるプル

トニウム量は、プルサーマルで燃  
やせた分に限られるのよ。

ところが、これまでに4基の原  
発のプルサーマルで燃やせたプ  
ルトニウム量は15年間に5・73  
ト、年平均0・382トにすぎ  
ないわ。

今後、この4基で定期点検以  
外に長期停止せず燃やせたとし  
ても年平均0・692トだけ。  
つまり、この量は再処理工場  
を一年操業すると生じるプルト

力安全対策課との交渉  
で、操業率10%の問題

を議論したけど、原安課の技術職員  
は反論すらしなかったわ。県議会へ  
の陳情書にもその問題は何度も書い  
ているわよ。

なるほど、つまり、た  
とえ再処理工場を操業  
できても、操業率を年  
10%程度に制限せざるを得ない  
というわけね。

操業率10%では、今



後40年間（再処理工場

の寿命）で、現在、六ヶ所村のプ  
ルにある使用済み核燃料を再処理す  
るのがやっとよ。つまり、若狭の原  
発ブールにある使用済み核燃料を搬  
出することなんてできないのよ。

このことを県議や知事  
さんたちは知っているの  
かしら？



県議会で県は、「電気  
事業連合会は、2030  
年までに12基の原発でプルサーマル  
を進める方針」だと、電力会社の仮  
定の方針に盲従するかのような答弁  
をしているわね。12基の原発でプル  
サーマルを進めることなんて、現状  
では極めて難しいのに…。



# 使用済みMOX燃料を処理する第二再処理工場は その計画地すら決まっていない！



原発でウランとプルトニウム混合のMOX燃料を燃やすプルサー



プルサーマル運転後の使用済みMOX燃料の行き先はあるの？

マル運転は、当初の目標は2010年までに全国の16～18基で実施する

計画だったけど、現在、4基でほぼそ

ばそと実施できているだけなのよね。

## 初めから行き先のない 使用済みMOX燃料！



発熱量の高い使用済みMOX燃料は、原発

ルで百年近く冷やさなければならぬのよ。

使用済みMOX燃料には長寿命

のか青写真すらいま

にないのよ。使用済みMOX燃料を再処理する第二再処理工場の建設・稼働など夢のまた夢、おとぎ話にすぎないわ。

の核種が多く含まれ、これを再処理する施設もないから、高浜で永く貯蔵せざるを得なくなつたわ。

×燃料の製造が追いつかない事情もあるけど、そもそも電力会社は燃料コストが10倍になり、炉も不安定にさせるプルサーマルなど本音ではやりたくないのよ。高浜原発でも認可された量をいっぱいは使っていな

いのよ。

1998年にプルサー

請する際、関電は「使用済みMO

X燃料の搬出先は、国が再処理方法などの方針を2010年までに決めると約束していたそうね。

## その第二再処理工場



は、いつどこにできるか

にないのよ。使用済みMOX燃料

を再処理する第二再処理工場の建設・稼働など夢のまた夢、おとぎ話にすぎないわ。

高浜原発の老朽プールから放射能

を含む冷却水が漏れ出る心配。地震などで冷却水が抜ければ、崩壊熱でセシウムやヨウ素などの揮発性核種が大量に放出されるわ。今後、周辺の住民はその危険と隣り合わせで暮らさなければならなくなつたのよ。



ところで、「核燃料（ペ

ルトニウム）サイクル」

の主役はあくまでも高速増殖炉で、  
プルサーマルはつなぎ役にすぎない  
のよね。

福島原発事故の前年、  
福井県庁を訪れた近藤俊



介原子力委員長は、「2060年に  
高速増殖炉を実用化するとしている  
国の原子力政策大綱の実現など誰も  
考えていらない」と本音を吐露したわ。  
プルサーマルはつなぎ役にもなりえ  
ないし、「この先も「核燃料サイクル」  
に実現性はない」ということなのよ。

（14頁を参照）

2050年  
の高速  
増殖  
炉実用化  
原子力委員長、困難視

A 2010  
6/17

## 1997年12月県議会でのプルサーマルをめぐる論議

関孝治県議『地域振興策が示されなければ反対すべき』

栗田知事『正直言って地域振興を考える段階にはない』

山本文雄県議『原発を新幹線の駆け引き材料に、総理に直訴する考えはない』

栗田知事『新幹線のために、原発問題を進めるのは問題』

当時、三重県議会は原発立地の凍結決議をし、北川知事は立地を拒否しています。他方、福井では、原発を地域振興との取引材料に使おうと、それを露骨に口にする県議がいて絶句させられたものです。ただ、この時点で栗田知事は、プルサーマル計画は議論の積み重ねが必要で急ぐ考えはない。使用済み燃料対策を優先させる。国との日程に合わせるつもりはないと慎重な姿勢を崩しませんでした。



結局、若狭の原発サイ

ト内にある使用済み核  
燃料四千数百㌧の大半

は再処理できないまま「核のゴミ  
(高レベル廃棄物)」になる運命と  
いうことね。でも、関電は、県外で  
の中間貯蔵施設を2030年ごろに  
操業開始すると県に約束しているわ  
よ。

上関町の「中間貯蔵  
施設誘致計画」のこと



ね。だけど、再処理の行き詰まりが  
誰の眼にも見えてきた今、上関での  
「永久貯蔵」も見えてきて、世論は  
受け入れ拒否に傾いてるわ。

周辺の田布施町議会も3月21日に  
反対決議し、山口県知事も「負担と  
して非常に過大」だとしていて、同  
意は難しいと思うわ。

# 『プール貯蔵より乾式貯蔵の方が安全』は、ダマシの手口！

中間貯蔵によりプール水喪失事故の危険が高どまり！



原発敷地内での乾式貯蔵の安全性について、安全福井県の原子力安全専門委は、安全と評価しているわ。



熔融事故を起こす危険はほとんどないわ。でも、

高い放射線は出続けているのよ。乾

式容器は、プールのようには放射線を遮蔽できず、キャスクの近くでは1時間で公衆の被ばく線量限度1ミリシーベルト／年を超えてしまうわ。原子力規制委員会でも40年後には漏洩のためキャスクを移動できなくなることを心配していたほどよ。



プール貯蔵より、乾式貯蔵の方が安全と信じている県議も多いわよ。

多くの人が誤解していることだけど、プールで10年も冷却すれば、

冷却水喪失による使用済み核燃料の熔融事故の危険はほとんどなくなるわ。そのままプールに入れておけばいいことよ。



関電は「乾式貯蔵の方が安全」と言つけど、それはダマシの手口よ。プール水の喪失による燃料熔融事故を心配する人は、原発が運転を続け、13カ月ごとに燃料が交換され、プールにたえずホットな使用済み核燃料が入っている状況をこそ心配すべきなのよ。



米国の原発では、70年代から乾式貯蔵を進めてきたそうね。

## 米国の乾式容器は 長期保管専用で内陸貯蔵用

米国は、70年代にジミー・

カーター大統領が、ブ



ルトニウム増殖利用の路

線を放棄したのよ。

高速増殖炉も再処理工場もやめ、

軽水炉の使用済み核燃料は、当面、

原発敷地内で保管することになった。



福井の政治家たちは、「地域振興」との取引を

原発の問題で、いつも

ほとんどの原発は内陸にあり、潮風で劣化する」ともないから、分厚

いコンクリート遮蔽の容器が使われているわ。

それに比べ日本の乾式容器は貯蔵・輸送兼用で小型軽量薄型。放射線の

遮蔽力が弱いため、遮蔽用の建屋や設備がいるし、遮蔽体のレジン（エポキシ樹脂）は、中性子線照射によって消耗し、50年先には「金属ガスケットの健全性の問題が生ずる」可能性がある。関電の担当者も「容器の設計上、60年以上は置けない」と高浜町議会で回答しているわ。

（2024年3月14日 朝日新聞）

ところで関電は2013年から、使用済み核燃料の中間貯蔵施設の受け入れ要請を210の自治体に行い、すべて断られたそうね。

高浜原発に隣接する

京都府宮津市は、ふるさとを守る条例の理念

にそぐわぬものとして中間貯蔵施設の受け入れを拒否したのよ。



当時の宮津市は、深刻な財政難にあり、2019年度の「将来負担比率」は、夕張市に次ぐ全国ワースト2位だったのよ。それでも、中間貯蔵受け入れにともなう電源三法交付金などの金銭的誘惑にも惑わされず、毅然として使用済み核燃料の中間貯蔵を拒否したのよ。

# 西川前知事『中間貯蔵は管理、監視が中心の仕事。雇用効果はない』

西川前知事は2015

年、後援会長である川田達男福井商工会々頭の「（敷地内）貯蔵を貯蔵ビジネスと意識転換すべし」の意見にも「中間貯蔵は管理監



視が中心の仕事。雇用効果はない」と、それをはねつけたのよ。

杉本知事が敷地内貯



蔵を認めれば、それは、

「若狭を核のゴミの墓場にしない」という栗田（元）知事以来の県方針の大転換で、県民の願いにもそむくことになるわね。

## 知事、誤り認める

原発事故設立する

1985年10月2日 朝日新聞（県版）

チエルノブイリ事故の前年の1985年の

県議会で山本順一県議（自民党）は「知事は15基もの原発を受け

入れたが、住民の所得増大には結びつかなかつた。」と追及。中川知事は「期待したようにはいかなかつた」と脱帽したわ。

福井県も1994年に「原発15基を誘致したが、恒久的福祉の実現にはほど遠い」「一時的な財政面の恩恵より、新たな恒久的な地域活性化のあり方が求められている」と総括しているのよ。

さらに2010年にも福井県立大学経済研究所が「関電の利益は大部分が県外に流出し、原発の県経済に対する直接的なメリットは、見かけの大きさほどは大きくなない」と報告しているわ。

人口減少問題は全国共通の悩みだけど、とくに原発のある町での若年層の人口減少は深刻のようね。

いまだに一時の金（地域振興）をあてにし、未来世代の危険に思いをめぐらせない政治は、時代錯誤よね。

美浜町は1990年に原発は「恒久的・総合的・広域的振興には結びついていない」と報告。

おおい町が、町内13

団体からアンケート調査を行なったところ、

「産業の育成や企業誘致による雇用の創出」「新規就業者の受け入れ等による産業振興」など、仕事につながる産業や雇用の創出に力を注ぐべきと考える割合が高かつたそうよ。

(令和2年 おおい町人口ビジョン改訂版)



でいるのよ。

55年間の減少率（最大人口・最少人口）は町村平均の13%に対し、美浜町31%、おおい町24%、高浜町18%と突出しているわ。お金がたくさんあるからといって、町が「豊か」になつたとは言い切れないのよ。



潤沢な財政でなぜなの？

「ここに興味深いデータがあるわ。

1965年から2020年の55年間の、県内町村全体の人口のピークは1999年よ。

でも、美浜町、おおい町、高浜町は、年平均20億円前後の電源三法交付金が交付され、原発関連税収が予算に占める割合も莫大であつたにもかかわらず、原発を持たぬ町村より

その答えはこれまでいくつも指摘されてきているけど、例えば次の新聞記事の見出し「原発交付金が自立を阻害」は象徴的ね。



(1998年・朝日県版)

「原発交付金が自立阻害」

豊かな町で若者流出



参考図書:「再稼動の前に考えよう使用済み核燃料」長沢啓行講演録 ￥500

「なぜ、原発で若狭の振興は失敗したのか」白馬社 山崎隆敏 ￥935

# 再処理工場による放射能汚染の現実

私たちは若狭・福井だけが核汚染から免れればよいなどとは考えて



境では検出されないコバルト60などの放射性物質も検出されているわ。

（毎日新聞1998年7月23日）  
白血病、骨髄ガンで死亡しているとの医師の証言もあるのよ。

保健所や開業医らが、工場の35キロ圏内（人口約90万人）の25歳未満の

住民を対象に白血病調査を実施。10キロ以内では、国内平均で予想される

発症数1・4人にに対し、2・8倍の4人だったと報告されているのよ。

再処理工場は、原発とは比べものにならない大量の放射能を海と空に日常的に放出するのよ。英仏ではこれまで日本の使用済み核燃料を再処理していたのよ。

## 仏国の中再処理工場での汚染

仏のラ・アーグ再処理工場周辺では、トリチウムが一般環境の700倍、セシウム137が約150倍と極めて高レベルで検出され、一般環



（毎日新聞1996年8月4日）

六ヶ所再処理工場でも、2006年からの試験運転で、ヨウ素129その他の核種を海と空に放出しているのよ。福井新聞は、試運転でブルトニウムなどの放射性物質が漏れたことを伝えているわ。

（福井新聞2006年4月13日）



英國の再処理工場でも  
英國セラフィールズ再処理工場の近くの村では、25年間に11人の子供が、



原発は「クリーン」エネルギーと宣伝されるけど、百万Kwの原発で年に広島型原爆千発分の死の灰が生まれるそうね。

使用済み核燃料には、



半減期が二万四千年（自然消滅までに二十四万年）の、自然界には存在しない超猛毒のプルトニウムも含まれているわ。プルトニウム8 kgで長崎型原爆を一個つくれるのよ。それを日本は、約45トンも保有しているのよ。



プルトニウムは1 gで日本人全体の許容量になるそうね。たった1 gで四百万人を肺ガンにするとともいわれる超猛毒物質なのよね。

原発は「クリーン」エネルギーと宣伝されるけど、百万Kwの原発で年に広島型原爆千発分の死の灰が生まれるそうね。



### 1ミクロンのプルトニウム微粒子（タバコの煙り一粒大）が肺の中に入

れば、そのアルファ線によって、確実に気管支ガンや肺ガンが引き起こされるのよ。



「余分なプルトニウムは持たない」という

国際的な約束があるのに、なんで再処理をやめないのかしら？



21年前に、核燃中止を訴える「上質な怪文書」

が震が関界限に出回ったこと知ってる？

### ③ 既得権への固執

経産省の数人の若手官僚が関わったものらしいけど、核燃（プルトニウムリサイクル）をやめられない理由を次のように書いているわ。

プルトニウムは1 gで日本人全体の許容量になるそうね。たった1 gで四百万人を肺ガンにするとともいわれる超猛毒物質なのよね。



## 歴代知事は、「敷地内貯蔵」を認めませんでした！！



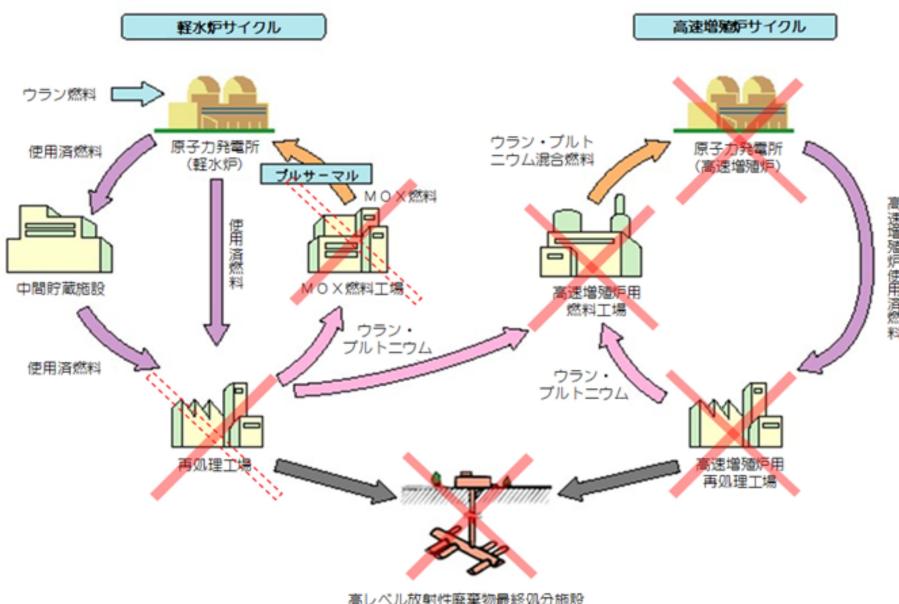
栗田（元）知事も西川（前）知事も、使用済み核燃料の敷地内の貯蔵を認めなかつたわ。それは、「核燃サイクル」が破綻した現状で敷地内貯蔵を認めれば、若狭が核のゴミ捨て場になると理解されたからよ。

敷地内乾式貯蔵の容認は、県原子力行政の大転換となり、若狭を核のゴミの墓場にしないでという県民多数の願いにもそむくことになるわ。

## 「核燃料サイクル」破綻 — 将棋なら、すでに「詰んだ」状態

「軽水炉サイクル」と「高速増殖炉サイクル」の両輪がつながらぬものを「核燃料サイクル（プルトニウムリサイクル）」とは呼べません。

核燃料サイクル概念図 （出典：資源エネルギー庁の原図に×印を加筆）





絶滅危惧種 コウノトリ

責任編集:「核のゴミと福井の未来を考える会」

監修:大阪府立大学名誉教授 長沢啓行 (若狭ネット資料室長)

協力:「サヨ原福井ネット」と 済財を寄せていただいた県内外の多くの市民のみなさん

\* このQRコードで福井県民にさらに広めましょう⇒



連絡先:越前市不老町6-36 山崎方 Tel: 090-6271-8771